

さいたま市 退職校長会会報

発行責任者
桑原裕通

魅力ある

市退職校長会へ

さいたま市退職校長会

副会長 金子 敏夫

市退職校長会が発足し、今年度で二十年を迎えた。歴代の会長様を始め多くの会員の皆様のたゆまぬ努力により、会の活動が続いている。私は、事務局幹事や理事を務めさせていただき二年になる。良き先輩や、仲間を得ることができ、充実した時間を過ごしてきた。入会して良かったとの思いで、現在務めている。

さて、現会員の構成は勤務地経験や退職後勤務など、会の發

足当时と大きく変化し、これまで以上に本会の果たす役割が重要になってきている。「会員の親睦と教育の振興」を目的とする事業も新たな視点から再考すべき時機と言える。コロナ禍にあって会員の交流が制限されてきたが、四年ぶりに、教育推進協議会と懇親会が実施できた。

改めて、人との交流がいかに大切かと実感した。また、各班事業の相互交流により、浦和班親睦ゴルフ大会、大宮班美術展（写真・絵画・書等）、岩槻班の「干支人形づくり」講習会に、与野班「健康寿命を延ばそう」研修会も加わり市内四班の出会いとつながりが深められてきていた。教育の振興では、豊かな経験と専門的な知見を有する会

員が、学校や公民館等で貢献する浦和班「講師派遣システム」に各班よりの講師登録もあり、全市的な取組みが展望される。このように市全体で、これまでよりもっと多くの会員の交流や活躍の機会が増えれば、入会したいと思う魅力ある会になるのではないか。

現在、今後の会の在り方にについて検討を進めている。会として関係機関と連携協力して、会員交流や教育貢献をどのように支援できるのか。様々な改革になるかと思うが、皆様の声を聞きながら進めていきたい。皆様にはこれからも本会の発展に向けてご協力をお願いする次第である。



—金子 敏夫 副会長—

題字..桑原 裕通

◇令和五年度
さいたま市現職・退職校長会
教育推進協議会 概要

◇令和五年度
さいたま市退職校長会
副会長 金子 敏夫

目 次

◇令和五年度
さいたま市現職・退職校長会
教育推進協議会 概要

副会長 金子 敏夫

目 次

◇令和五年度
さいたま市現職・退職校長会
教育推進協議会 概要

副会長 金子 敏夫

目 次

◇令和五年度
さいたま市現職・退職校長会
教育推進協議会 概要

副会長 金子 敏夫

目 次

◇教育情報

○浦和班..星野 貞邦
○大宮班..溝口 正己
○岩槻班..岡野 功
○与野班..秋山 正光
○与野班..橋本 栄
○岩槻班..岡野 功
○与野班..橋本 栄
○岩槻班..岡野 功

◇班だより

○浦和班..富永 恒一
○大宮班..吉原 誠士
○岩槻班..高後 仁
○与野班..久田 富士子
○与野班..福島 博子

◇談話室 ～私の一言～

○浦和班..吉原 誠士
○大宮班..高後 仁
○岩槻班..久田 富士子
○与野班..福島 博子

◇叙勲受章者・ご長寿者一覧表

**令和五年度さいたま市
現職・退職校長教育推進
協議会 概要**

令和五年十一月二十四日(金)市民会館おおみやにて、現職校長四十四名、退職校長四十八名の参加者を得て開催された。ご来賓は、さいたま市教育委員会学校教育部長野津吉宏様、さいたま市教育委員会学校教育部指導1課主席指導主事下館文雄様。

一 開会行事

野口事務局長の司会進行、小学校校長会三島会長の開会の言葉にて協議会が開催された。

桑原会長の主催者、
県退職校長会副会長としてのあいさつ

【概略】本日は、小学校・中学校・退職校長会からそれぞれの代表の方に現在の課題と成果について発表をしていただきたいと現職の校長先生方には、学校経営の参考、退職した方々には、地域に求められている課題として受けとめていただきたいと考

えます。今日の協議会が皆さんにとって実り多いものとなるよう期待してあいさつとします。

続きまして、埼玉県退職校長会副会長としてごあいさつを申しあげます。まず、本年六月二日にありました埼玉県退職校長会定期総会の開催について、さいたま市退職校長会の皆さんのご協力により盛会に終えられたことを感謝申し上げます。埼玉県退職校長会では本年度の重点として六点を掲げています。本年度就任した新井俊一会長が特に重視しているのが、本協議会のように「彩の国教育の日」に関わる諸活動の充実支援です。現職の校長先生と退職した皆さんが一堂に会し、充実した協議会を通して、支部の活性化が図られることを期待します。

野津学校教育部長の
来賓あいさつ

【概略】本来ならば、竹居教育長がございさつ申し上げるべきところ、所用があり、代わりに教育委員会を代表してごあいさ

つを申しあげます。

さいたま市の教育の近況についてご報告します。まず、八月に公表されました全国学力学習状況調査の結果です。教科につ

いては全ての科目において全国の平均正答率を2・5~7・4ポイント上回り、学力においては過去の調査の中でも最も良好な結果となっています。併せて、

二 研究発表・研究協議

研究部大澤・萩原両幹事により進行される。(以下後述)

三閉会行事

中学校長会小熊会長の閉会の言葉にて教育推進協議会を終了とした。

(文責 蓮見 哲)

晴らしい成績を残しています。

これらの成果は、これまでの伝統の上に、現職の校長先生方の確かな教育実践が積み重ねられているからだと感謝申し上げます。



研究発表 要旨



—伊澤 昌二 校長—

◇ 小学校教育の諸課題

「学校教育ビジョンの実現を図る活力ある組織づくりと運営」

「誇り高き子どもを育む活力ある運営」

「組織づくりと運営」

一 はじめに
校長 伊澤 昌二

令和四年は、学制公布から一五〇年の節目となる。コロナ禍の影響もあり、時代に即応した教育の大改革として教育DXが提唱され、学びの自律と個別最適化が求められている。大変革

期だからこそ学校は、教育の不易と流行を十分見極めた学校運営が求められる。

二 研究のねらい

学校教育目標の具現化に向けて重点目標を「三つの環境（言葉、学習、安全・安心）が子どもを育む」として

①言葉＝言葉遣い、挨拶を中心とした教職員の模範

②学習＝「分かる・できる」の環境提供

③安全・安心＝生徒指導・教育相談体制の充実、交通安全教育・教育環境整備

この三つを掲げ組織として研究をした。

三 研究の概要

(一) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた「これからのお授業」への指導法の工夫・改善

①校長が主となりコーチングの視点を導入した授業実践研修を実施した。「面白い授業」

は、学ぶ意欲と学力の定着に定期的な整備を行ってい

つながることを提唱した。

②「授業参観シート」を作成し

授業参観によるOJTを行い指導・助言した。教師同士が互いに授業を公開し指導力を高める姿がでてきた。

(二) 声を生かした学校づくりによる活力ある運営

①主役である「児童の声」を反映させた活動・行事づくりを

重視し学年・学級経営を取り組ませた。児童自らがプロジェクトを立ち上げる学年も生まれた。

②「教職員の声」を生かすこと

を大切に傾聴し、主体的に動くことができる環境や雰囲気づくりを重視した。

(三) 保護者・地域との連携による学校づくりの推進

①学校運営協議会の尽力により、

交通量も多く登下校の安全を担保するための設備設置や環境整備ができた。また、「潤い自然園」を有効活用するため定期的な整備を行ってい

ただき四季を通しての環境学習を進めることができた。

②地域の人材・教育力を生かすことをねらい、地域人材リストを作成した。児童と地域の方と直接話したり支援をいたりが見られた。

四 研究のまとめ

教育の不易と流行を見極める

ことが求められる中で、学校の役割は、今後どうなっていくのかを考えていかなければならぬと実感した。もちろん、ICT

Tを効果的に使った授業等の実践は必須である。しかし、このような時代だからこそ、学校のよさである人とのかかわりを大切にすることを追い求めていく必要があるのではないかと考える。

「誇り高き子どもを育むための学校経営」は、児童、教職員、保護者、地域の声をいかに受け止め、活用するかによってなされるものではないかと考える。



— 細井 博幸 校長 —

◇中学校教育の諸課題

「中学校における『令和の日本型学校教育』構築に向けた現在地と今後の展望」

西原中学校

校長 細井 博幸

一はじめに

○西原中学校では、多くの教職員がICTを効果的に活用し、主体的、対話的で深い学びや学びのポイントを意識した授業を行っている。

○「心の豊かな生徒」「自ら学ぶ生徒」「強くたくましい生徒」を学校目標とし、小・中一貫教育、基礎学力向上等の研究を行ってきている。

○学習面では、全ての教科において振り返りを重視し、グローバル型の授業を行っている。

○少子高齢化、人口減少による学校教育の維持とその質の保障に向けた取組の必要性。

(二)個別最適な学び
自ら学習を調整（自分の理解状況を診断、それに応じて自分で工夫して学習できること）し、「指導の個別化」（目標が同じだが、違った学習方法で学習を進

ウスロゴノート（自学ノート）、グロウスロゴシート（学習時間の記録シート）を全ての学年で作成・実施している。また、スタディサプリの実施など、家庭学習の充実を図っている。

め、学習内容の確実な定着を図る）と、「学習の個性化」（それが異なる目標や学習内容について深め、広げる）を図る。

・Formsによる学習感想の蓄積と共有（生徒）

四 市教研ICT教育専門部での研究

○中一国語科での複線型授業への挑戦

○複線型授業を成立させるためのExcel教材の工夫

○情報収集、情報発信（校長だより、学校Webページの活用）

○スタディサプリの管理・運用

○指導訪問、学力向上カウンセリング学校訪問の活用

○自分の知識の三割で指導助言

○端末管理、修理状況の把握、代替機の配付等、生徒が安心して一人一台PCを活用できるシステムの構築が必要である。

○小・中一貫教育の視点から、小学校の実践を中学校が把握し、その積み重ねを中学校でどう活用させて行くか、一層の連携が必要である。

— 4 —

◇生涯学習の諸課題

「幼稚園が抱える諸課題」

さいたま市退職校長会

笹原 秀之

中央区の幼稚園に園長として

就任して五年目となるが、幼稚

園の経営には様々な課題がある。

一 少子化問題

厚生労働省の統計から出生数の推移をみると過去十年の間に十万人減少したが、近年ではわずか三年間で十万人減少し、昨年の出生数が八十八万人を下回るという流れになっている。児童減少傾向に歯止めはかかるていない。児童数に応じて補助金の額が決まる仕組みのため、私立の幼稚園・保育園は生き残りに

懸命である。本園は創業者の「地域の子どもを育てる」という理念から園バスを採用していないが、周辺を他園の様々なバスが走り回っており、子どもを奪い合うような状況が生まれている。

二 教員不足

ある大学では児童教育を専攻する学生八十八人中、幼稚園に就職した学生は二名だけであった。就職説明会を開催しているが参加者は少ない。大学への案内のみならず求人サイトや人材派遣会社にも登録しているのが現状である。また、若い教員は一人担任を避けたがる傾向がある。複数担任ならいろいろな子どもや保護者に対しても相談しながら対応できること、休暇が取りやすいなどの理由からと思われるが、それが可能な状況ではない。小中学校も同様の課題を抱えている訳であるが、これらの学生にいかに教育へ目を向けさせるか、例えば、市立大学を設置して教員養成を進めるなどの対策を強く願っている。

懸命である。本園は創業者の

三 保護者の意識

幼稚園を保育園と同様に捉えて、「預ける場所」としての意識が強い。一方、小学校入学前に英語に対する関心が高

く、アンケート結果からは約九〇%の保護者が英語の実施を希望している。楽しみながら英語に触れ英語を好きになって欲しいとの願いを受けて三年前から英語を実施している。また、小学校に入学してからの相談が寄せられている。いじめや学習意欲が低いなどの心配事を抱えて情報交換の場を必要としている保護者が数多く見受けられる。

五 特別支援教育

特別な配慮が必要な子どもに対しては、教職員と施設・設備面の不足から対応が困難である。保護者によつては子どもの状況の認識に大きな隔たりがあるため、保育の様子を見てもらい共通認識を図るように努めている。

外部の施設とも連携しているが受け入れに余裕がなく、市の発達支援施設の充実が望まれる。

四 安全

施設・設備の面では、カメラを設置し門はカードによる開閉を行っている。職員の手で園の内外を掃除することによって、危険個所等の事前察知に随分役立っている。教職員の意識についても安全に関する研修に力を入れ、危機管理マニュアルの見直しや全員で教室を点検するなどして意識を高めている。

にも「三歳の子でも自分のことは自分で守る」よう呼びかけを続け、毎月避難訓練を実施することで適切な行動がとれるようしている。

六 幼小連携

アプローチカリキュラムを作成し、年長の子どもに対して遊びを中心に小学校入学までに必要な知識・技能の習得を進めている。小学校との共通理解を図る上では、時間的な制約が大きく困難を感じている。

課題は多いが「教育の根本は幼児教育にあり」を信念として経営に努めている。



— 笹原 秀之 会員 —

さいたま市スマートスクールプロジェクト(SSSP)について

G I G Aスクール構想で整備された一人一台端末やクラウド環境等の教育インフラにより、本市の学校では、デジタルの優位性を活用した教育活動が展開されるようになりました。今まさに学校の風景は大きく変わろうとしています。

国では、すべての子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現を掲げており、デジタル庁や文部科学省などによる「教育データ利活用ロードマップ」が示されました。

このような背景を受けて、さいたま市教育委員会では「一人ひとりの可能性を最大限に引き出し、新たな価値を創造していく力をはぐくむ教育の実現」をビジョンに掲げ、さいたま市スマートスクールプロジェクト（以下、SSSP）を推進しています。SSSPの【三つの観点】と【五つの事業・取組】について御紹介いたします。

【三つの観点】

一つ目は、『学び方改革』です。子どもたちが一人一台端末とクラウド環境を活用することで、自分の学びの足跡（履歴）や、友達の学習過程を確認しながら、自らの学びを調整し自分の力で学習を進められるようにします。

二つ目は、『教え方改革』です。教職員が学校で日々蓄積される各種データを活用することで、これまで以上に子どもたち一人ひとりへの最適な指導・支援が可能になるため、授業改善への挑戦が期待できます。

例えば、教師は、クラウド上で可視化された個々の子どもたちの学びの過程と実際の学習状況の観察とを組み合わせることで、子どもたちに寄り添う指導や支援の効果をこれまで以上に高めることができます。

三つ目は、『働き方改革』です。教職員がICTを積極的に活用して校務の効率化を図るなど、業務改善を図ることにより、子どもと向き合う時間や教材準備の時間を確保することができます。また、オンライン会議や動画研修の導入による物理的・時間的制約の緩和を通して、働き方改革が促進されます。

【五つの事業・取組】

- 一. ICTを活用した探究的な学びの実現を目指した本市独自の取組「学びのポイント『じ・し・や・ク』（じ：じぶんできめる。し：しこうする。や：やってみる。ク：クラウド。）」などにより、教師の指導力向上及び授業改善と、子どもの主体性の育成を目指します。
- 二. 校務におけるICT活用状況の見える化「Join Forces」での情報共有や効率的な事務処理等、教職員が業務改善に取り組みやすい環境を整え、働き方改革を推進します。
- 三. リーディングDX指定校の実践事例の共有や、ICT活用訪問支援、各種研修の機会等の提供により、学校全体及び一人ひとりの教職員のICT活用能力の向上を目指します。
- 四. 教育データ利活用の基盤となる「スクール・ダッシュボード」システムの構築により、エビデンスに基づく学校・学級経営、学習・生徒指導の実現と、子どものSOSサインの早期発見等きめ細かな指導・支援の一層の充実を目指します。
- 五. 「(仮)SAITame情報サイト」の構築により、生成AIの効果的な活用による子どもたちの学びの充実と、教職員の校務の効率化を目指します。

さいたま市教育委員会では、子どもと教職員一人ひとりの幸せの保障と、社会の豊かさの創造のために、『学び方』『教え方』『働き方』にICTの効果的・効率的な活用という横串を通して、ダイナミックな教育改革を力強く推進してまいります。

班だより

○浦和班

星野 貞邦

さいたま市浦和退職校長会は令和五年度六名の新会員を迎えて二百二名でスタート。「会員の親睦と福祉の増進、教育の振興に寄与」をテーマに活動を進めました。

◇総会・長寿祝賀会

並びに新会員歓迎会

五月十四日（日）、市教委学

校教育部長をお迎えし、さいたま共済会館にて開催。終了後、長寿祝賀会（喜・米寿）及び新会員歓迎会を実施しました。

◇一日研修会

～鎌倉から江ノ島へ、

海と空の絶景探索♪

参加者の中、江ノ島からの景色は、海と空と遠くの山や街を三百六十度の絶景を堪能することができます。また、バスの中での多彩な話題に花が咲き、親睦が深まり、充実した研修でした。

た。

◇うらわかい同好会活動
ハイキング、ゴルフ、囲碁、合唱など八個の同好会がありま

す。その中でも、ゴルフ同好会は年二回（五月、十一月）にう

らわかい親善ゴルフ大会として開催しました。岩槻班や大宮班など他の班からの多くの参加をいただき、楽しく和気藹々プレー

することができました。また、ハイキング同好会は東京の柴又方面で十一月に実施しました。

◇年末懇親会

十二月十七日（日）、埼玉会館を会場に親睦を兼ねた年末懇親会を開催し、一年を締めることができました。

◇親睦旅行

コロナ及びインフルエンザ拡大のため中止になりました。

◇講師等紹介システムの構築

会員の専門的知識・特技や趣味を教育振興に寄与するため、十八名が講師登録し、学校教育活動等を支援しています。

○与野班

秋山 正光

さいたま市与野班退職校長会は、今年度二名の新会員を迎えて桑原裕通会長以下全四十九名でスタートしました。

一 定期総会・講演会

五月十二日（金）与野本町公民館を会場に開催。一堂に会す

司氏より「中央区のまちづくり構想」という演題で、中央区の現況と将来構想等についてお話をいただきました。

例年行ってきた、総会後の与野班退職校長教育懇談会は中止となりました。

五月十二日（金）与野本町公民館を会場に開催。一堂に会す

てご活躍の村山郁子氏より、健 康づくり「これだけで！健康寿命をのばそう！」という演題でお話をいただきました。

例年行ってきた、総会後の与野班退職校長教育懇談会は中止となりました。

てご活躍の村山郁子氏より、健 康づくり「これだけで！健康寿命をのばそう！」という演題でお話をいただきました。

各班会員の相互交流推進として、本班の研修会に浦和班からも参加いただき、また岩槻班や大宮班の活動に本班からも参加しました。

四 その他

各班会員の相互交流推進として、本班の研修会に浦和班からも参加いただき、また岩槻班や大宮班の活動に本班からも参加しました。

武藏野を会場に四年ぶりの開催となりました。

三 現職・退職校長教育懇談会

十一月八日（金）ブリランテ

薬剤師、管理栄養士、健康運動指導士、さらに民生委員とし

総会後、前中央区長の近藤裕なりました。

総会後、前中央区長の近藤裕



一私の一言一

窓から見える風景

富永 恒一

自宅の窓から母校の中学校のテニスコートが見える。目を輝かせて活動している生徒たちの姿に元気づけられている。試験中など生徒の声やボールを打つ音が聞こえない日はなにか物足りない。私は中学三年間、無我夢中でこのコートで練習してきた。卒業した後もOBコーチとして毎日コートに立っていた。二人の息子もこのコートで白球を追ってきた。母校の顧問にならざるにいてほしいと願う日々である。今の夢は、十数年後にこのテニスコートで孫がラケットを振る姿を窓から眺めることである。

は昔と少しも変わらない。
三十八年間楽しく充実した教職人生を送れた恩返しと思い、退職後、教職の楽しさを伝えようと初任者の指導にあたってきました。デジタル化、コロナ、働き方改革等により学校現場は大きく変化してきているが、子どもにとっても教師にとっても「学校は楽しいところ」という根本を、手を変え品を変え、Z世代の初任者に伝えようとしてきた。テニスコートの桜の木は、幼少の頃から、春はお花見、夏は木陰で休息と人々を楽しませてくれたが、枯れたため大きく枝を切られた。校舎のリフレッシュ工事の様子が見える。数年後には立派な姿に生まれ変わるだろう。変化が大きい時代であるが、生徒の笑顔だけは永遠に変わらずにいてほしいと願う日々である。今の夢は、十数年後にこのテニスコートで孫がラケットを振る姿を窓から眺めることである。

玉の歴史や本県・本市の出土例の紹介、作成方法等を指導した。当日は、百名を超える児童の参加で盛況であった。楽しそうに取り組み、完成作品を互いに見せ合いながら喜ぶ笑顔が何よりもご褒美である。

教諭時代の勤務校での再任用を満了し、昨年四月から新たな生活が始まった。晴耕雨読、ネット検索して大学の公開講座を聴講、出勤や通学する人々を横目に愛犬との散歩で一日が始まっている。

矢作 修一

新たな生活を少しでも充実させたいと思い、チャレンジしたことの一つが、初任校長として勤務した小学校区での青少年育成会の活動である。事業委員会の一員として、主に年四回の体験事業の運営や夜間巡回活動に参加している。校長時代にお世話になった地域の方々が、現在も役員として熱心に活動されていることに頭が下がる。

昨年六月に、初回の体験事業として「勾玉づくり」の講師を務めた。県博（現歴史と民俗の博物館）での経験を生かし、勾

地域と共ににある学校作りが期待される中、育成会の役割や保護者との関わりを模索しつつ活動している。今後も子ども達や多くの方々との出会いに学びながら、日々の生活や自己の生涯学習を充実させていきたい。

まだ現場、 野戦指揮官を 続けています

吉原 誠士

夜八時を過ぎた校長室にいます。校長職を野戦指揮官と呼び、鮫か鮒かと言われるほどの慌ただしい状態を続けていますが、再任用となつて少し気持ちの余裕が生まれたかもしません。このゆつたりした気分で十一月の研究発表を迎えるました。委嘱された「全ての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学び」というテーマに「単元内自由進度学習」で応じました。内容の詳細は省きますが、その過程で戦後教育史に触れる機会がありました。一斉や個別といった学習形態が、終戦直後の「米国教育使節団」報告書以降も続く課題であったことに驚くとともに、諸先輩方の現役当時の苦労も偲ばれ、頭が下がる思いでした。

アインシュタインの「過去から
戦指揮官を楽しみたく思います。

ら学び、今日のために生き、そして未来に希望をもつ」に従つて、研究には古本屋巡りも欠かせません。神田で偶然「個性を伸ばす教科外指導」(明治図書)を入手しましたが、この本には私がお世話をなつてている岩佐正二郎先生のお名前も載っています。現役当時から今日まで、個別学習についてご教示いただき、特に「一斉指導ができないければ個別指導はできない」とのお話を胸に留めていました。今でも若手教員には自分の言葉にアレンジした上で繰り返し述べています。

さて、本校事務室前には、季節に合わせたりースを何個も自作して飾り付けてあります。昨年度からはPTAの依頼もあり、コサージュ制作のワークショッピングも行っています。芸術性に乏しくとも、豊かな心持ちでいらっしゃれば、多くの方々と学ぶ楽しさが生まれ、学校に彩を添えることができます。まだまだ現場でできることは多そうです。野

がんばれ教師の たまごたち

— 教職を支援して —

橋本 栄

教職支援の仕事をして七年になる。仕事中によく思うことがあります。先生方が教師になろうとしたきっかけは何だったのかと。私の場合は、「免許はとっておいた方がいい」と友人に言われて教職課程をとったまでで、「ぜひ教師」と思っていたわけではなかつた。教員採用試験は、教育実習に向けての実績作りだったので、ろくに勉強もせずもちろん不合格。就職活動も行って公務員試験に受かったので、その流れで行こうと考えていた。

教員人生を決めた最大のきっかけは教育実習だった。徹夜に近い毎日だったが、授業の準備に夢中になれた。「教師に向いてるよ」と指導教官に、「先生になって」と生徒たちに励ました。両親に頭を下げて教職浪

人の許しを請い猛勉強した。

あれから四十五年、多くの学生と話をする機会を得ている。

面談で必ず聞くことの一つに

「教育実習はどうだった?」がある。

「指導教官にていねいに教えてもらった」。「授業がうまく先生がいて憧れた」。「お別れ会で子供たちから手紙と花束をもらつて感動した」。「内定をもらつていたが教師希望に変わった」等々。一方、仕事を丸投げされ、不安を覚えた学生もいる。今も昔も変わらない。

昨日、企業就職は順調で、多くの学生がほぼ五月中旬に内定をもらっている。ホッと一息というこの時期に、教師をめざす学生たちは教育実習に向かう。終わつたかと思うとすぐに教員採用試験。結果が出るのは早くて九月だ。それでも迷うことなく教師をめざしている。

がんばれ教師のたまごたち! 昔を思い出し、夢や希望を持ち続けるよう応援している日々である。

道の途中

高後 仁

「今年は昨年に比べて校内のキンランの株数が多い。学生に紹介し、経年で調査することを提案しよう。」「今年はクヌギのドングリの数が少ないよう感じる。本当に少ないので、みんなで状態を確認し、できれば理由も調べてみよう。」里山の豊かな自然に囲まれたキャンバス、その変化を日々楽しみながら、次の授業で話すことを考える。

退職して間もなく一年、保育士を養成する短大で、授業を行っている。学生の多くは、豊かな自然について、自然の保育での活用について、学びたいといふ高い意欲をもって入学してくれ。また、幼児教育と初等教育の違いやその接続について関心の高い学生も多い。専門にしていた理科や植物の知識を話すこと

「今年は昨年に比べて校内のキンランの株数が多い。学生に紹介し、経年で調査することを提案しよう。」「今年はクヌギのドングリの数が少ないよう感じる。本当に少ないので、みんなで状態を確認し、できれば理由も調べてみよう。」里山の豊かな自然に囲まれたキャンバス、その変化を日々楽しみながら、次の授業で話すことを考える。

日々が充実する理由の一つは、学びたい学生に伝える楽しさにある。自分の稚拙な話を、目を輝かせて傾きながら聞いてくれる姿は、何事にも代えがたい。一方で目的をもつて受講しているがゆえに、自分の目的やイメージにあわないと、つまらなそうに話を聞く学生もいる。教える側の一方的な思いだけでは授業は成立しない。学生が何を望み授業を受けているか、よく考えて内容を構成しなければならない。初任の頃、子どもの実態把握なしに授業はできない、と教えたことが大学生として目の前にわったことを改めて思い出す。

毎日が研修である。

と、長くかかわった初等教育の経験を話すことは職責の一つと考え、授業の中に織り交ぜながら、九〇分を構成する。改めて勉強しなければいけないことも多く、教材研究にかなり時間を割かれるが、充実した毎日である。

新しい自分を発見しよう

福島 博子

定年を待つて大学院へ入った。すっかり手垢のついてしまった自分の教育観と、ちょっと疲れた心をリフレッシュしつつ自らの「来し方行く末」を見据えてから私は、目の前の生徒や教職員が「今しかかわれない」存在としてより一層かけがえがない日々の重みが増した。

自分の実力のなさと向き合いながら、なんとか修士論文を書き上げる頃、幸いにも様々な縁でいくつかの大学からお声をかけていただきた。

現在、週三～四日、複数の大

学で「道徳教育」等の講義を受け持たせていただいている。その中で一番の喜びは、丁度小・中学校で校長をしていった頃の子供たちが大学生として目の前にいることである。「あの頃」を

共有しながらの講義前後の他愛もない会話は、私にとってこの上ないご褒美ともいえる時間である。

教職を目指す学生と話していくと、ふと学級担任時代のこと思い出しがある。担任時代は四月の学級開きや学級目標設定に随分と力を入れていた。「新しく集ったこのメンバーで泣いても笑っても一年間一緒に過ごしていくのだから、みんなで少しでも居心地のいいクラスを創ろう。そして、今の自分を見つめ、よりよい自分、新しい自分を発見しよう！」などと勇ましく語っていたこと等々。

人生の残りを数える年齢になった。一昨年母を亡くし、強く自分のこれからを思うようになった。生徒に偉そうに説いてしまった手前、「…ここで過ごしていくならば、少しでも居心地のいい時を刻み、できるならば新しい自分を発見すべく努力していくしかないか」と自分につぶやいてみる日々である。

自分のペースで

久田富士子

退職して仕事は週一回となり現役の時の忙しさから開放されたのだが時間があり過ぎるとペースを乱しがちになる。しかし六年が過ぎ、自分らしいリズムが出来てきたように思う。

今は週に二・三日程体操教室に通っている。自分の足でいつまでも歩けるように筋肉貯金をコツコツと続けて二年が過ぎた。他に新たに始めたことは、友人と着物を着てコンサートや美術館に出かけるようになつたことだ。友人達とランチをしながらのおしゃべりは現役時代では考えられなかつたことだ。平日の旅もまたしかりである。印象的だった旅は、コロナ前に行つた奄美大島である。田中一村の絵を見たかったこともあって、一村美術館を初日に訪ねた。思つた以上にすばらしい場所で、何

度でも訪ねてみたくなる美術館だった。車で島内を巡ると、山には自然に生えたであろう蘇鉄が真っ赤な実をつけていた。砂浜には鮮やかなピンク色の可憐な花。黒い岩と奄美ブルーの海と鳥のシルエット。見る景色の一つ一つを一村の絵と重ねつつ人や光や風がゆつたりとした時間の中にとけ込んで過ぎてゆく奄美の魅力にひきつけられ、再び訪れたいと思った。

これからやってみたい事は野菜づくりである。ある友人は家庭菜園で多くの野菜を作り、私もおそそ分けしていただいた事が下手な私でも出来るのか心配だががあった。植物を育てる事が下チャレンジしてみたい。そしてこれからも良いと思う事や、やりたい事を心に持ち続けていきたい。時に小休止しつつ日々を楽しんでいきたい。

ゆっくりと自分のペースで自分の坂道を下つていけたら最高である。

奉祝 叙勲受章者〔令和5年度〕

秋の叙勲

木村 栄二 氏（浦和）

瑞宝双光章受章

慶祝 ご長寿者〔令和5年度〕（敬称略）

米 寿 満88歳	寺内 信（浦和） 土屋 豊（浦和）	若山 法一（大宮） 瀬田 良宏（大宮）	中野 光造（岩槻）
傘 寿 満80歳	関口 靖彦（浦和） 依田 功（浦和）	友光 正夫（浦和） 瀬戸口憲二（与野）	岡田 孝雄（大宮） 新里 孝二（岩槻）

編集後記

会報第39号をお届けします。世の中は脱コロナを合言葉に、以前の生活や活動を取り戻しつつあります。さいたま市現職・退職校長教育推進協議会も盛大に行われました。本号はその報告と多くの皆様からの貴重な玉稿により構成されています。これから多くの会員の皆様方からの貴重なお声をお待ちしております。

（広報担当幹事 千葉 和博）